

南紀熊野ジオパーク探偵団 参加者募集

南紀熊野ジオパーク探偵団ってなんだろう？

<目的> 南紀熊野ジオパークをフィールドとした探究活動を通じて得る新たな気づきをもとに、「think locally, act globally」（地域で考え、地球規模で行動）の視点に立って、地元にある社会的な課題の解決と未来に向け考える人材を育てていきます。

<対象> 自然や環境に関心がある中学生・高校生です。

<活動> 「海洋環境を考える」と「紀伊半島の森林の生態系を考える」の2つのテーマを設定し、専門家の指導のもと、調査活動を行います。調査活動の前後に、事前・事後学習も行い、学習の効果を高めます。その後、専門家の助言を受けながら、探究活動を行い、その結果を発表します。



活動は発表まで全部参加しないといけないのですか？

調査活動と事前・事後の学習は、原則セットで参加してね。
応用編の探究活動は、頑張ってチャレンジしてみよう！



■参加申込は担当の先生に5月20日（月）までに相談のうえ、お申し込みください。

担当の先生は取りまとめのうえ、下記までお申込みをお願いします。

学校等通信欄

主催：南紀熊野ジオパーク推進協議会
〒649-3502 和歌山県東牟婁郡串本町潮岬 2838-3
和歌山県立南紀熊野ジオパークセンター内
TEL：0735-67-7100 FAX：0735-67-7191
Mail：e1004021@pref.wakayama.lg.jp



南紀熊野ジオパーク公式HP



公式 Facebook



NANKIKUMANO.GEOPARK



過去の活動をご紹介します



～海洋環境を考える（現地調査活動の様子）～

- ・白浜町の志原海岸と新宮の三輪崎海岸にて、団員は班に分かれて、決められた範囲を1時間程度活動しました。発見したごみは記録用紙（写真1）に従って記載しながらごみ袋に回収しました（写真2）。大きなごみだけではなく、マイクロプラスチックも回収し、種類ごとに（例：プラスチック・ペットボトル・缶・瓶など）重量を計測しました。

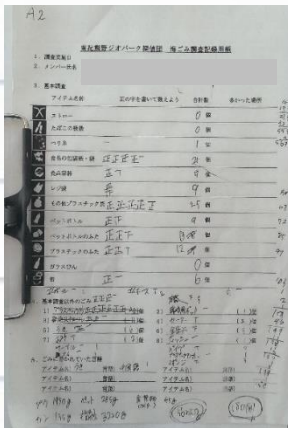


写真1 記録用紙



写真2 ごみの回収作業



昨年度の事後学習ではこんな取り組みもしました

花王（株）の研究者による花王のプラスチックリサイクルの取組の学習後、海洋ゴミ調査で収集したペットボトルキャップを使ったアップサイクル実験を行いました。



～紀伊半島の森林の生態系を考える（現地調査活動の様子）～

- ・北海道大学和歌山研究林にて、午前中の活動では天然林を構成する樹木の特徴を学びながら、研究林産の木材を使用して箸作りを行いました。そして、作った箸で昼食を食べ、午後からは、天然林と人工林に入り、それぞれの違いを観察するとともに、生態系について学びました。



調査活動はあくまでもきっかけに過ぎません。活動に参加して疑問に思ったことから幅広く探究活動につなげていくことが可能です。ぜひ挑戦してみてくださいね！



「海洋環境を考える」活動計画



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

14 海の豊かさを
守ろう



「持続可能な開発目標（SDGs）」のひとつである「豊かな海を守ろう」は、世界の海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用することを目標としています。

また、海洋に関する目標の達成のため、2021年～2030年の10年間を「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」とすることが宣言されました。

「海洋環境を考える」をテーマに、世界につながる海の世界を探る活動を行います。

日程	内容	
6月5日（水） 放課後	事前学習 （オンライン）	本年度の活動概要と問題意識を共有します。
6月8日（土） 14:30～16:30	現地調査活動①	海洋ごみ調査 定員30人程度 場所：白浜町 志原海岸 予備日：6月15日（土）
6月9日（日） 10:00～12:00	現地調査活動②	海洋ごみ調査 定員30人程度 場所：新宮市 三輪崎海岸 予備日：6月16日（日）
7月10日（水） 放課後	事後学習① （オンライン）	調査結果の報告と課題の共有、意見交換をします。
8月20日（火） 10:00～16:00	事後学習② （対面）	プラスチックとの付き合い方について考えます。現地活動で収集した海洋プラスチックごみを用いた実験も予定しています。
夏休み以降随時	探究活動	専門家の助言を受けながら、更に調査・分析・考察を進めます。（希望者）
令和7年 1月頃（予定）	活動発表会	探究活動の成果を発表し、専門家の評価を受けることで、新たな気づきを得ます。

※国連では6月5日（水）世界環境デー、6月8日（土）世界海洋デーとして定めており、今年度はこの日にあわせて事前学習や現地調査活動を行う予定です。

なお、地域の人々が集まる「南紀熊野ジオパークフェスタ」（令和7年2月ごろ）、研究者・科学者も参加する「日本地球惑星科学連合大会」（令和7年5月ごろ）での発表も可能です。



「紀伊半島の森林の生態系を考える」の活動計画



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

15 陸の豊かさも
守ろう



森林は、二酸化炭素を吸収したり、多様な動植物を育むなど私たちに様々な恩恵をもたらしています。しかし、世界では、1000万ヘクタール（北海道面積の約1.2倍に相当）の森林が毎年破壊され、約4万種が今後数十年で絶滅の危機に瀕すると報告されています。

一方、江戸時代に紀州藩では、「留山^{とめやま}」という制度を定め、森林資源の保護や土砂災害の防止が必要な場所での樹木の伐採などを禁じていました。現代でも、和歌山県では、先人の知恵にならい、貴重な自然生態系を支える森林を「新紀州御留林（しんきしゅうおとめりん）」として公有林化し永続的に保護しています。

本テーマでは、北海道大学和歌山研究林（古座川町平井）と協働し、南紀の山奥に足を運び、本テーマでは、南紀の山奥に足を運び、森林の生態系を観察し、この地域の森林とそこに住む生き物の特徴や機能について考察します。

日程	内容	
9月初旬 15:40～17:40	事前学習 (オンライン)	本年度の活動概要と問題意識を共有します。
9月7日(土) 9:30～16:00	現地調査活動	天然林を構成する樹木の特徴を学んだ後、動植物の観察を行います。定員：15名程度 場所：北海道大学和歌山研究林（古座川町平井）
9月中旬	事後学習 (オンライン)	調査結果の報告と課題の共有、意見交換をします。
活動終了後随時	探究活動	専門家の助言を受けながら、グループで更に調査・分析・考察を進めます。（希望者）
令和7年 1月頃(予定)	活動発表会	探究活動の成果を発表し、専門家の評価を受けることで、新たな気づきを得ます。

なお、地域の人々が集まる「南紀熊野ジオパークフェスタ」（令和7年2月ごろ）での発表も可能です。